

お正月、おめでたい植物と言えば、まず浮かぶのが松竹梅。そして千両万両です。今回は、梅と万両を組み合わせて鉢に植えました。万両は「夫婦長寿万両」という改良品種で、赤実と白実が1本の木になるおめでたさ。梅も紅梅と白梅を1本ずつ植えています。これなら、お正月の活け花のかわりに玄関や床の間に置いても良さそうですね。万両の実実はヒヨドリの大好物で、たった一晩で実が食べ尽くされてしまうこともあるとのこと。エントランスやアプローチに置きたいのをぐっところえて、室内に飾っておく方が無難そうですね。

■マンリョウ



夏、小枝の先に白い星形の花を下向きに咲かせ、冬に真っ赤な実をたわわに実らせるマンリョウ。ヤブコウジ科、常緑の小低木で30センチから1メートルぐらいの大きさです。こちらは「夫婦長寿万両」という名の改良品種で、通常よりも大きめの実を長くつけます。混同されやすい千両は、葉の上に実がなります。



■ウメ



高さ7mほどにもなる落葉小高木。今回は20cmほどの盆栽を使いました。つぼみのものも、暖かい室内に置いておけば間もなく咲き始めます。花が終わったら数芽を残して剪定し、別の大きめの鉢に植え替えるとよいそうです。上手に管理すれば、来年またお正月の寄せ植えに使えるかもしれません。



■コケ



湿った環境を好み、温暖な地域に多くみられます。コケ類は世界中で2万種ほどあると言われてはいますが、日本人ほど「苔」を愛でる民族はいないかもしれませんね。お寺の景観や盆栽作りにおいて、なくてはならない要素です。写真のようにふわふわしたやわらかい苔を育てるのはなかなか難しいそうですよ。



寄せ植え例

ポイント

奥に夫婦長寿万両、手前に紅白のウメを1本ずつ植えました。ウメの鉢に使われていたコケと白砂を移して和の雰囲気を出しました。

管理

6月ころまで、万両の実が楽しめます。夏の直射日光は苦手な植物なので、半日陰で。冬場は日のよくあたる窓辺などに置くと良いそうです。